

Suzuka 8 hours, 2024

2024 Summer

モータースポーツ ニュース

MOVING YOUR WORLD

LUBRICANTS.
TECHNOLOGY.
PEOPLE.





鈴鹿 8 耐

2 年連続の快走 200 周を達成しチェッカー

フックスジャパンがシルコリンオイルのスポンサーを務めて 2 年目となるチーム DOG HOUSE&TRIPOINT FUCHS Silkolene は 2024 FIM 世界耐久選手権“コカ・コーラ”鈴鹿 8 時間耐久ロードレース第 45 回大会において 2 度目となるノートラブルでの完走を果たし、目標としていた 200 周でチェッ

カーを受けた。

岩谷 圭太選手、左村 英祐選手、大須賀 俊晴選手のもとに今年も多くをサポートが訪れ、華やかなレースクイーンのパフォーマンスも相まってピットウォークは熱狂的な盛り上がりを見せた。ナイトピットウォークではピットワークも実演。チームは昨年度からカテゴリーを改造できる幅の広い EWC へと変更し、ピットでの時間を短縮するためにタイヤクイックチェンジシステムを導入、プロに匹敵する素早いピットワークを披露した。

今年の鈴鹿は晴天が続き、路面温度は 65 度以上に上昇、酷暑がライダー達を襲った。「とにかく暑かった」と左村選手は語る。猛暑の長時間走行といった過酷な環境下でも、シルコリンオイルは特別に研究された配合による、卓越した皮膜強度と表面保護性能を発揮、完走に貢献した。

岩谷選手は「安堵の一言です」と感想を述べた。「今年は練習も含めて全くのノートラブルでした。8 耐をマシンもライダーもかすり傷一つ負うことなく終わることができました」エンターテインメント精神旺盛な岩谷選手がグリッドで見せたダイナミックなウィリーは観客を大いに湧かせていた。

チームの結果は総合 32 位、ラップ数はプライベートの壁とも言われている 200 周を突破した。





マシン：SUZUKI GSX-R1000R
 使用オイル：FUCHS SILKOLENE PRO 4 PLUS





鈴鹿 8 耐 シルコリン使用チーム

SST クラス優勝！ TONE RT SYNCEDGE 4413 BMW が王者の座を奪還

今年は 1 ステイント目にあたる序盤に転倒が相次いだ SST クラス。TONE RT SYNCEDGE4413 BMW は SST クラス 6 位（総合 27 位）からスタート、安定した走行と卓越したピットワークで順調に順位を上げて、SST クラス史上最多周回数となる 212 周でチェッカーを受け、総合 17 位、2019 年以来の SST クラス優勝を果たした。ライダーは星野 知也選手、吉田愛乃助

選手に加え BMW のファクトリー契約ライダーのハネス・ソーマー選手を迎えて挑んだ。吉田選手は予選で他車との接触により右手を負傷、決勝では 1 ステイントのみを走行し、残りは 2 人のライダーが請け負った。ライダーに大きな負担のかかる猛暑の中、忍耐強い走り続け、快勝に至った。

マシン：BMW M1000RR
 チーム使用オイル：FUCHS SILKOLENE PRO 4 PLUS



鈴鹿 8 耐 激戦の末に無念のリタイア



FIM 耐久世界選手権に参戦している WÓJCIK RACING TEAM 777 が鈴鹿に挑んだ。チームはフックス ポーランドがスポンサーを務めており、同選手権の常連で経験豊富。予選では転倒があるも SST クラス 7 位（総合 28 位）を記録した。

決勝ではスタート後しばらく他チームとの並走が続いた。4 ラップ目の TEAM FRONTIER と Motobox Kremer Racing #65 の接触による転倒からは免れたものの、6 ラップ目に激しい順位争いの渦中で転倒、マシンの復旧が見込めず残念ながらリタイアとなった。FIM 耐久世界選手権での暫定の順位は 14 位。チームは SNS で「私たちはまた戻ってくる」と鈴鹿 8 耐再挑戦の決意を表明した。

マシン：Honda CBR1000RR
チーム使用オイル：FUCHS SILKOLENE PRO 4 PLUS

イギリス スピードウェイ・オブ・ネイションズ センセーショナルな勝利！ GB Speedway が金メダルを獲得



マンチェスターで開催されたスピードウェイ・オブ・ネイションズにおいて、フックスがスポンサーを務める GBSpeedway が優勝を飾った。ロバート・ランバート、ダン・ビューリー、トム・ブレナンのチームは歴史的な好記録を叩きだし、グランドフィナーレでオーストラリアを破った。そして、4 年ぶり 2 度目となる金メダルを獲得。GB のキャプテン、ロバート・ランバートは、一晩を通してわずか 1 ポイントしか落とさず、その類まれな才能を見せつけた。ダン・ビューリーの驚異的なリカバリーと最後のパフォーマンス、そしてトム・ブレナンの安定した貢献が、スタジアムを歓喜の渦に巻き込んだ。

